

2019年3月期 決算説明会 主なQ&A

- Q 20.3期の運輸収入見通しの考え方について教えてほしい。特殊要因として記載項目以外に織り込んでいる要素はあるのか。
- A 20.3期の運輸収入は対前年102.5%であるが、災害反動増+85億円を除けば、対前年101.5%の見通しである。基礎については従来通り、経済動向や人口動態を踏まえて合理的に見積もっており、GWによる増収についても過去の実績をベースに計画に織り込んでいる。なお、今年のGWは非常に多くのご利用をいただいたが、4月前半のご利用状況などから推察する限り前後の需要を取り込んだ可能性もあると考えており、今後の動向を注視していきたい。なお、特殊要因には、記載以外の項目があることにご留意いただきたい。
- Q 中計発表時点では、特に中計期間前半に費用・設備投資ともに集中的に実施するとのことであったが、19.3期の自然災害を受けて、その見通しや計画に大きな変更はあるのか。
- A ご指摘の通り、自然災害により災害復旧工事を優先したことにより、工程調整を行うこととなったが、特に中計前半で集中的に安全対策を行うという方針に変わりはなく、必要な工事を着実に実行する。工程調整分については、極力早い段階で実施していきたい。
- Q 修繕費の20.3期の見通しは1,705億円であるが、今中計期間は1,700億円程度の水準が続くのか。それとも、労務単価の上昇等によりさらに上昇していくのか。
- A 20.3期の修繕費は、災害により工程調整を行った設備投資に伴う撤去費の増に加え、定期的な検査・修繕の波動増や消費税改定対応等により高い水準となっている。また、ご指摘の通り労務単価の上昇、自然災害への激甚化対応もあり、コストに対する上昇圧力が掛かっているのも事実。そうしたなか、車両の短編成化やICカード普及に伴う券売機台数の削減、技術ビジョンに則った生産性向上等によりコスト抑制に取り組んでいる。
- Q 中計目標に対する流通業の進捗状況はどうか。
- A 流通業については、計画通り順調に進捗している。19.3期と20.3期はヴィアインの開業経費が先行するフェーズであるが、23.3期中計最終年度の利益達成に向けての取り組みであるのご理解いただきたい。
- Q 中計における不動産業の考え方についてお伺いしたい。また、進捗状況はどうか。
- A 不動産業の戦略は、従前よりお伝えしている通り、沿線の街づくりによる線区価値向上とエリア外での事業展開によるノウハウ蓄積である。今中計では不動産賃貸・販売業において23.3期に営業収益1,000億円を目指している。JR西日本不動産開発とJR西日本プロパティーズは相互に強みをもっており、シナジー効果も発現しているところであり、中計目標に対して順調に進捗している。